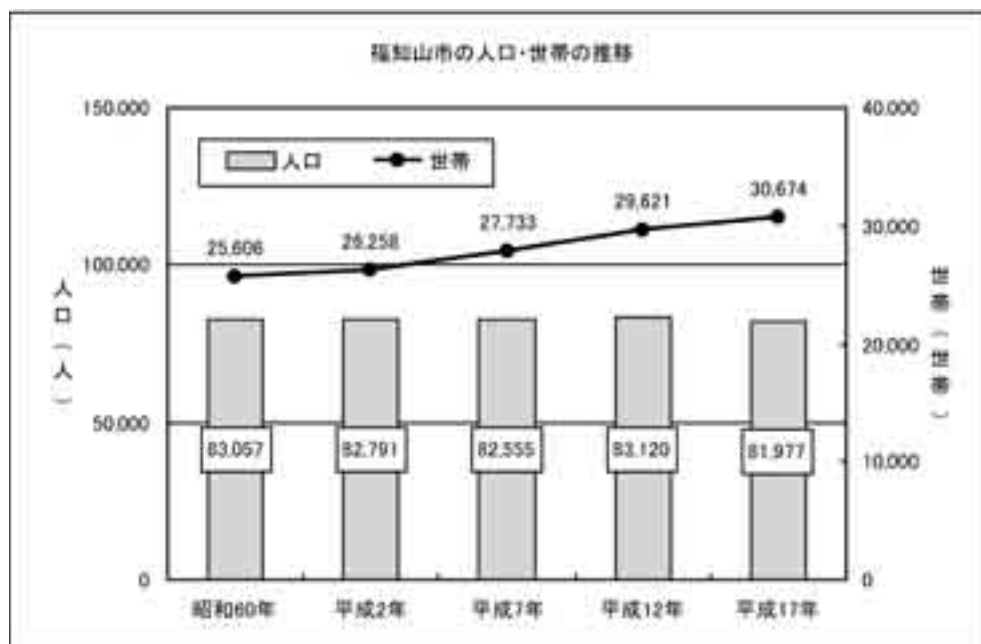


第1章：現況と課題

1. 人口・世帯の動向

【人口・世帯数】

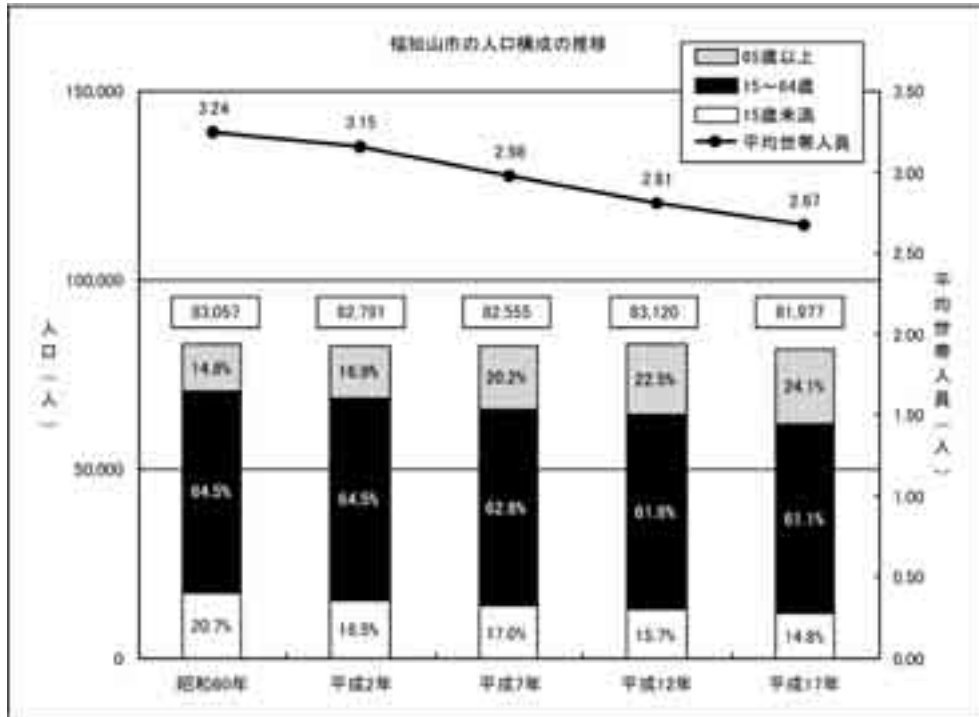
少子・高齢化が進むなか、福知山市の人口は平成12年に増加のピークを迎えて微減傾向に転じています。一方、世帯数は、核家族化などにより増加の傾向にあります。



出典：各年国勢調査

【年齢階層 3 区分別人口】

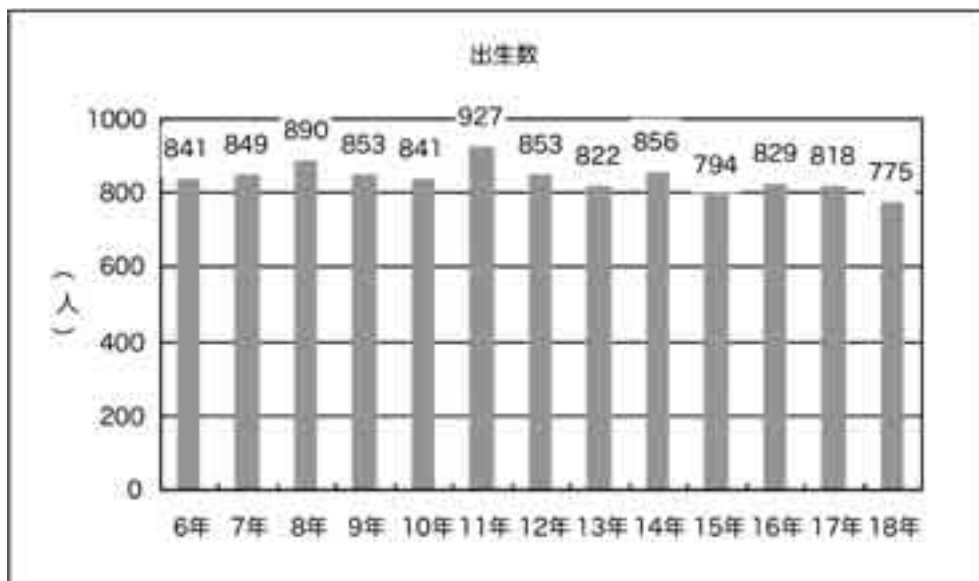
年齢階層 3 区分の人口比率の推移をみると、少子・高齢化の進展は顕著となっています。65 歳以上高齢者人口比率は 24.1%（平成 17 年）と、京都府全体の 20.0% と比較すると大きくなっています。平均世帯人員は、昭和 60 年の 3.24 人／世帯から平成 17 年には 2.67 人／世帯にまで減少しています。



出典：各年国勢調査

【出生数の動向】

本市における出生の状況は 700 人台から 800 人台で推移しており、はっきりとした減少傾向はみられません。



資料：各年 12 月末日現在（市民課）

【合計特殊出生率の動向】

合計特殊出生率は、全国や京都府で減少傾向にありますが、福知山市ではここ数年1.86となっています。

■合計特殊出生率の動向

	全国	京都府	福知山市
7年	1.42	1.33	
8年	1.43	1.30	
9年	1.39	1.26	1.86
10年	1.38	1.26	
11年	1.34	1.22	
12年	1.36	1.28	
13年	1.33	1.20	
14年	1.32	1.17	1.86
15年	1.29	1.15	
16年	1.29	1.14	
17年	1.25	1.13	

資料：国立社会保障・人口問題研究所ほか

※ **合計特殊出生率**：1人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当します。具体的には、1人の女性が15歳から49歳まで（再生産年齢）の間に、毎年その年齢ごとの年齢別出生率で生むと仮定し、再生産年齢にある女性の年齢別出生率を合計して算出します。

【課題】

福知山市は、人口に大きな変化はありませんが、少子・高齢化、核家族化と世帯規模の縮小が進んでいます。このようななかで、家庭における親子の関係、地域社会と子ども・子育て家庭との関係が変容してきており、子育て支援のニーズも多様化しています。地域社会全体で子どもと子育てをいかに見守り、支援していくかが課題となっています。

出生率は、横ばい傾向で推移していますが、全国や府と比べると高い水準にあることから、この水準を維持し、向上させていくことが望まれます。

また、北近畿の都としての都市的性格により一定の人口移動があることから、転入してくる子育て世帯に対して必要な相談や情報の提供が必要です。

2. 男女の就労

【男女別の就労状況】

平成17年における15歳以上の人口のうち就業者は43,874人で、全体の就業率は約60%となっています。これを男女別に比較すると男性の就業率の約72%に対し、女性は約49%にとどまっており、女性の就業率が低くなっています。

男女別年齢階級別の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）をみると、女性が出産・育児により仕事を辞め、子育てが一段落してから再び働き始めるという、いわゆる日本の就労構造を象徴する典型的な「M字」を描いています。

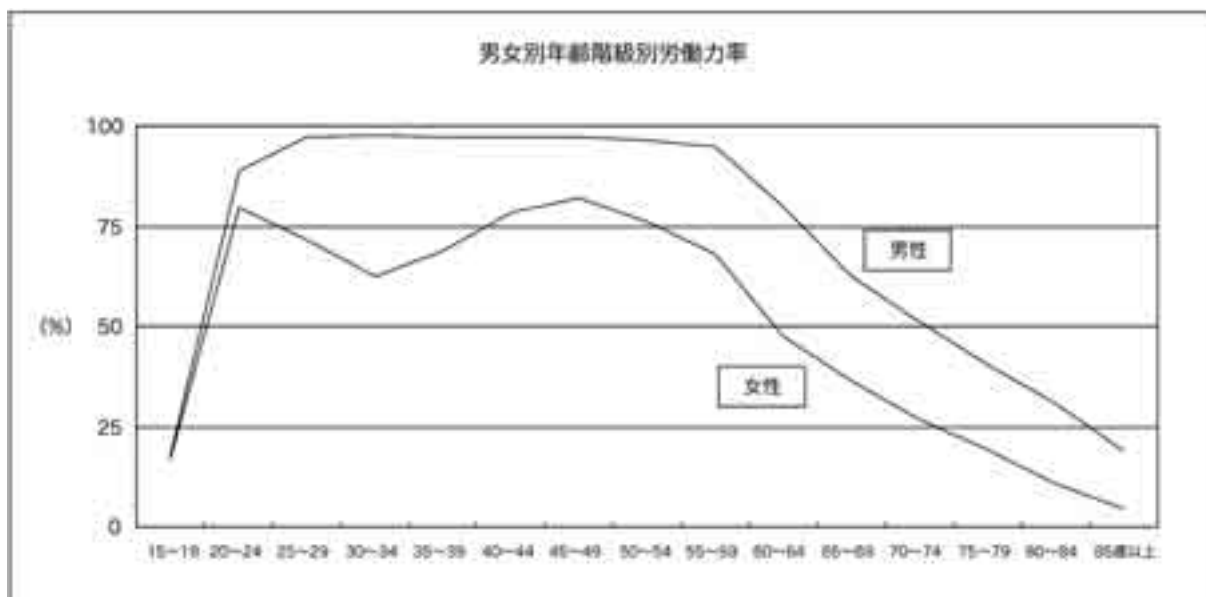
■男女別の労働力人口と就業率

(単位：人、%)

区分	総数(A)	労働力人口			非労働力人口	就業率(B/A)
		総数	就業者(B)	完全失業者		
男性	33,926	25,774	24,389	1,340	7,541	71.9
女性	35,826	18,100	17,417	728	17,531	48.6
合計	69,752	43,874	41,806	2,068	25,072	59.9

※総数には、労働力状態不詳を含む。

出典：平成17年国勢調査



出典：平成17年国勢調査

○アンケート調査結果

「子どもの両親の働き方」について

父親の85%以上が「勤め人（フルタイム）」であるのに対し、就学前児童の母親の約46%が「無職（専業主婦を含む）」、約26%が「パート・アルバイト」に従事していますが、就学児童（3年生まで）の母親では、約23%が「無職（専業主婦を含む）」、約43%が「パート・アルバイト」と逆転しています。子どもの幼少期に離職し、子どもがある程度成長した段階でパート・アルバイト等始める女性像がうかがえます。また、「育児休業を取得したことがない」父親は80%を超えており、残る20%の多くが「数日の育児休業を取得した」などとなっています。

「子育てと仕事の両立が困難なとき」について

「自分が病気・ケガをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒を見る人がいない」が最も多く約40%、次いで「子どもと接する時間が少ない」「急な残業が入ってしまう」が約30%などとなっています。

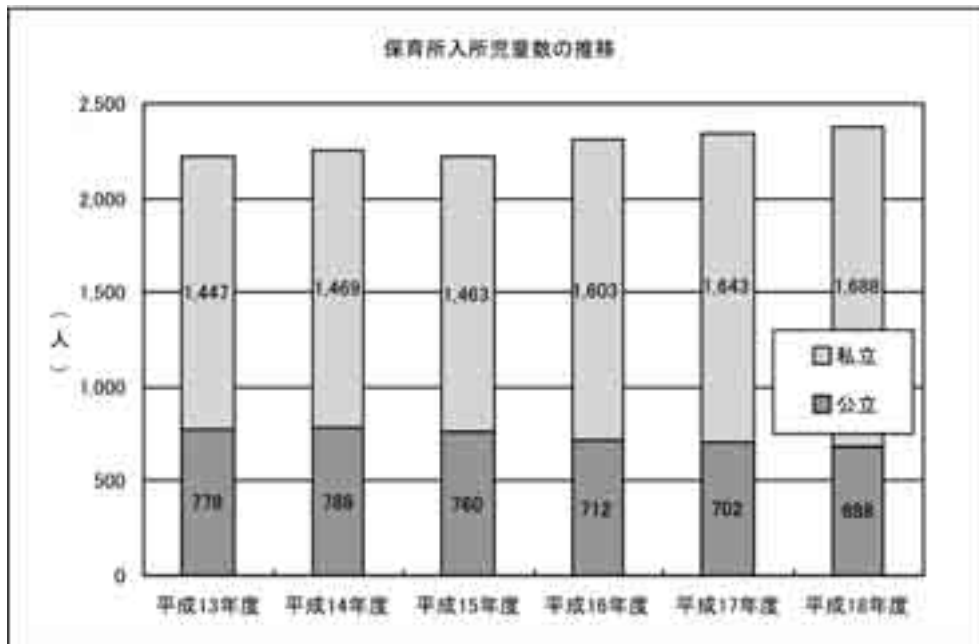
【課題】

「男は仕事、女は家庭」という従来の性別役割意識を見直し、女性も男性もともに自らの人生を自ら選択、決定でき、家庭と仕事を安心して両立させていける男女共同参画社会づくりの一層の推進が求められています。特に、女性が出産・育児によって仕事を辞めざるを得ないという社会を変えていかなければなりません。加えて、社会構造自体を変革するために、事業者等とも連携しつつ、男性の働き方の見直し、育児と就労の両立支援についての具体的な取り組みをさらに充実させていく必要があります。

3. 保育所・幼稚園

【保育所の子どもの数】

福知山市には公立 16 か所、私立 17 か所の認可保育所があり、すべての保育所で 0 歳児からの保育を実施しています。入所児童数の推移をみると、ここ数年微増の傾向にあります。



資料：子育て支援課

【延長保育の実施状況】

保育所において、11 時間の保育時間を超えてさらに時間を延長して保育を行う延長保育は、女性の社会進出や核家族化の進行などにより需要が増加しています。平成 18 年度では私立保育所 14 か所で実施しています。

■延長保育実施保育所数の推移

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
実施保育所数	8	13	13	14	14

資料：子育て支援課

【一時保育の実施状況】

保育所に入所していない子どもを、保護者の疾病や通院、育児疲れ解消、パートタイムの仕事などの理由で一時的に預かる保育が一時保育です。平成 18 年度では、公立・私立保育所 5 か所で実施しています。

■一時保育実施保育所数の推移

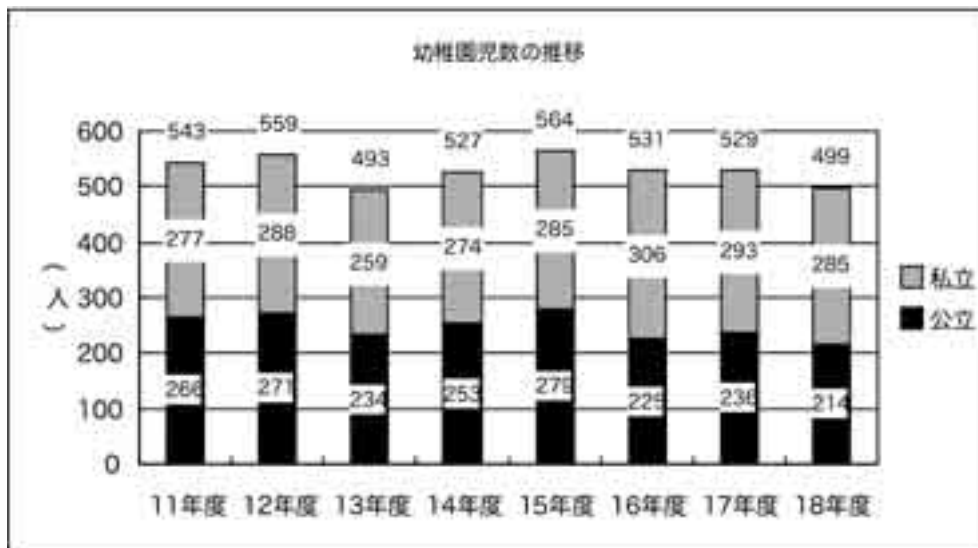
	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
実施保育所数	4	4	5	4	5
延べ利用児童数	1,193	968	1,399	1,362	

資料：子育て支援課

【幼稚園児数】

平成 18 年 4 月現在、本市には公立幼稚園 9 園、私立幼稚園 2 園があります。公立幼稚園のうち 3 園が休園中であり、市街地の 3 園では 2 年保育を実施し、4 歳児の受け入れも行っています。私立の幼稚園は 3 年保育を実施しています。全体として、園児数は横ばいの状態となっています。

幼稚園の教育時間は 4 時間と定められていますが、保護者の就労等の理由により園児を預かる「預かり保育」を、公立 6 園・私立 1 園で実施しています。



資料：教育委員会ほか

○アンケート調査結果

「平日の保育」について

保育サービス等を「利用したい」が約 71%、このうち利用者は「認可保育所」が約 71%、「幼稚園」が約 22%などとなっています。また、「利用したい」の約 56%が「主な保護者が現在就労している」を、約 18%が「子どもに集団教育を受けさせたい」を理由としています。なお、認可保育所を利用していない理由としては、約 37%が「保育料が高いから」と答えています。

【課題】

少子化の進行や女性の社会進出の一般化により、保育所の子どもの数は増加し、また、保育ニーズが多様化しています。待機児童を出さないことはもちろん、延長保育、一時保育、病後児保育（平成 16 年度新設）などニーズに即応した保育サービスの提供が一層求められます。

幼稚園については、就学前児童の教育・保育を一元的に捉える考え方のもとで、保育所との役割分担が課題となっています。また、保育所・幼稚園は、入所・入園児童のみならず、未就園児も含め、地域に根ざした子育ての支援拠点としての役割が求められています。

さらに、保育料をはじめとする子育てに要する費用の負担感を軽減する必要があります。